

中部NGO-JICA中部地域協議会

JICA基金活用事業について

JICA中部 市民参加協力課

1. 世界の人々のためのJICA基金活用事業

国内の非営利法人が実施する開発途上国・地域における貧困削減や人々の生活改善・向上に直接的に貢献しうる活動をJICAとの「共同事業」と位置づけ、それぞれが責任を持って実施する事業です。

2. 対象とする活動

- ・提案団体が途上国で2年以上にわたり直接実施している以下の事業活動を対象
開発途上国・地域における貧困削減や人々の生活改善・向上に直接的に貢献しうる途上国現地での事業

3. 応募要件資格

- ・日本国内を拠点とする法人格を有する非営利団体
- ・草の根技術協力事業(JICA事業)及びNGO連携無償資金協力事業(外務省事業)の採択実績がない団体等

4. チャレンジ枠 (2019年度から)

- ・国際協力活動実績が2年未満(活動準備中を含む)の団体が対象
- ・活動の計画・実施・評価の支援を行う伴走支援者をJICAが配置し、計画策定時および事業実施中四半期ごとにコンサルテーションを実施

新制度について

- ・より広くNGOの皆様に関心を持って頂ける、使いやすく柔軟な制度に
- ・契約業務（実務）も簡素化

従来

課題

コンサルテーション・モニタリングサポートが限定的

採択できる件数に限りがある

事業主管 国内事業部

採択件数 約10件

2021年度募集～

メリット

- ✓ 地域団体との連携促進
- ✓ よりコミュニケーションをしやすい環境へ

国内拠点

約20件
(2021年度実績：16件)

採択件数増加

項目	旧制度	新制度
団体・JICA間の合意方法	業務委託契約書の締結	覚書の締結
事業規模	100万円を上限とした1年間の事業	団体が現地で実施する活動(規模は任意)における一部
経費負担範囲	事業実施にかかる直接経費及び間接経費(上限10%)	<u>現地活動にかかる直接経費</u> のうち、第三者による領収書が発行できるもの
経費積算方法	経費内訳書において個々の経費を積算し、見積書を作成	覚書において費目ごとの概算額を積算、 <u>見積書不要</u>
支払方法	通常枠: 四半期概算払い チャレンジ枠: 四半期確定払い	両枠共通: 四半期確定払い
四半期報告	「業務進捗報告書」及び「支出状況報告書」の提出	「支出状況報告書」のみ提出 活動報告は任意
証憑(領収書)	団体名で取付けを行い、団体にて10年保管	団体名で取付けを行い、 <u>JICAにて10年保管</u>
活動中の経費内訳等の変更	事前にJICAに通知し、打合簿の取り交わし	事前にJICAに通知、 <u>打合簿不要</u>



ルワンダのコーヒー生産地における持続的生産にむけた土壌改良及びポテト臭解決のための支援

対象国：ルワンダ

団体名：特定非営利活動法人コーヒー生産地と協働する会



活動報告

ルワンダ共和国は品質の高いコーヒーの産地ですが、栽培技術が低いことが農家の収入とコーヒーの収穫量を制限しています。特に、土壌分析をほとんどすることがないまま施肥を行なっていることが土壌中の養分の不均衡や生産性の低下につながっています。またポテト臭と呼ばれる人体には影響はないものの、味を阻害する異臭が発生することがあります。

本事業ではそれらの解決のため簡易な土壌測定器の導入から施肥方法の立案までのトレーニングをフィエのコアカカ協同組合に行いました。また紫外線を用いたソーティングによりポテト臭の検査方法の作成を行いました。その結果、コアカカの農業技官が土壌測定から施肥計画の立案までを協同組合に提言できるようになったほか、パイヤーの要望によって紫外線によるポテト臭の検査を行えるようになりました。

検査結果から土壌改良方法を協同組合農業技官と計算している場面

ご寄附いただいた皆様へのメッセージ

皆様から頂いた寄付のおかげでルワンダの小規模農家の生産性向上を支援する取り組みができました。ポテト臭の問題はなかなか簡単に取り除けるものではありませんが、生産現場で行う一つの改善方法を協同組合で作ることができました。誠にありがとうございます。

ルワンダのコーヒーは優しいバランスの良いコーヒーですので、お店で見かけた際はぜひお試しくださいと幸いです。

特定非営利活動法人コーヒー生産地と協働する会では今後も世界の人々のためのJICA基金事業から得た結果を活かしながらルワンダの小規模農家とともに活動をしていきたいと考えています。この度は誠にありがとうございました。





アルパカプロジェクト～ボリビアと在日ボリビア人女性の元気、生きがいのためのビジネス創出

対象国: ボリビア

団体名: 特定非営利活動法人日本ボリビア人協会



活動報告

ボリビアの貧困層の生産するアルパカ毛を日本で製品化し、日本でのアルパカ製品販売を拡大、ボリビアの貧困層の収入を増やして生活水準を向上し、在日ボリビア人の抱える問題（高齢化による就労場所の減少、生きがいづくり等）を改善したい理由から、ボリビアでアルパカ毛を生産する貧困層のコミュニティと、アルパカ毛の日本での製品化・販売拡大に向けた協働体制を構築し、現地でアルパカ毛を生産するグループの生活向上に貢献することで生きがいを創出する事を目的に、プロジェクトを始めました。

ボリビアへ直接出向いて、アルパカ毛系の生産者を交え品質、生産環境、生産規模を調査。日本では地域住民のアルパカに対する認知度を知り、ターゲット年代の趣向に対するイメージをつかみ、それらの結果を踏まえ多くの方が購入しやすい商品を製作するため、10個の質問からなるアンケートを実施。アンケートを基に在日ボリビア人による編み物研修の参加者募集をし、在日ボリビア人による編み物研修に向けて研修講師に編み図作成及び見方のレクチャーを依頼、在日ボリビア人による編み物研修及び、パッケージ、タグ付け研修を行いました。

現在、日本ボリビア人協会のホームページにて作成されて編み物製品の販売に向けて準備しています。

ご寄附いただいた皆様へのメッセージ

まず、初めにプロジェクトを実施するにあたって、ご協力頂きました皆様に心から感謝しております。当団体にとっては初めての試みでしたが勉強になりました。日本では編み物教室は生徒たちが元気よく、楽しんで学んでいる姿に感銘を受けました。ボリビアでは日本にも通じる職人たちの心意気を感じることができ、多くを学びました。このプロジェクトはまだ完成には至ってはおりませんが、これまで進めることが出来たことを感謝し、このプロジェクトをより発展できるように頑張っていきたいと思っております。今後ともご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

アルパカ毛に関するワークショップ

